



## 県産材の需要と供給を一体的に創造しよう!!

### 平成28年度 去人 静岡県山林協会 第35回定時総会



鈴木敏夫副会長

来賓の方々

退任された榛村純一氏

## INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧ください。URL : <http://www.moritohito.jp>

- 2 総会報告**  
第35回定時総会開催
- 3 支部だより①**  
川根本町「木の駅かわね」～森も明るく、山里も明るく、心も明るく
- 4 支部だより②**  
静岡市森林組合の動物被害対策
- 5 支部だより③**  
獅子ヶ鼻トレッキングで磐田の魅力を再発見! ～婚活もやっています～
- 6 県庁だより①**  
低コスト造林システムの定着に向けた新たな取組
- 7 県庁だより②**  
花と緑にあふれた県土を目指して～県環境ふれあい課の取組～
- 8 本部情報**

# 本部情報

## 第35回定時総会開催

8月29日、会員をはじめ県議会や国・県の行政機関等のご来賓の出席を賜り、第35回定時総会が開催され、平成27年度事業報告及び決算、役員候補の補欠選任など全ての議案が原案どおり可決されました。副会長及びご来賓のあいさつ要旨をご紹介します。なお、今回の総会での役員補欠選任後の新役員名簿を8ページに掲載しましたのでご覧ください。

### 副会長挨拶

川根本町長  
鈴木 敏夫 氏



第35回定時総会にご来賓や会員の皆様に参加をいただきお礼申し上げます。

さて、近年は森林・林業が暗い低迷時期を脱出しつつあると感じることが増えてまいりました。東京オリンピックの関連施設に木を使うことがマスコミ報道などで大きな話題となっています。また、かつて林業で賑わった川根本町でも林業の不振が長く続いてきましたが、現在では日々大井川鉄道を走る機関車トーマス号の運行数に負けない数の木材輸送トラックを見かけるようになってきています。まだまだ、大井川鉄道の木材貨車輸送が華やかだった時代のように多数の木材輸送トラックが走るまでには至らないまでも、林業が明るい方向に変化しているのを感じています。

将来も日本が発展していくには、中山間地域の森林が有する木材供給機能、水源涵養機能や国土を守る機能が十分に発揮され続けることが必要であります。さらにそのための森の番人の確保と育成が必要であり、協会は行政と連携し対応していかねばなりません。また、近年では、県内で森林認証の取得や森林認証材のPRの取り組みが増えてきました、当協会はその取り組みの支援を行政と連携し積極的に進めてまいります。協会の目的に向け役員が一丸となって頑張りますので、皆様のご協力ご支援をお願い申し上げます。

### 来賓祝辞

静岡県知事 代読  
経済産業部農林水産戦略監  
若原 幸雄 氏



第35回定時総会の開催にあたり、一言お祝いを申し上げます。

貴会におかれては本県の森林・林業行政に多大なる御協力を賜わり、深く感謝申し上げます。また、森の力再生事業につきましては、当初計画の整備が完了いたしました、新たな森林の荒廃もあり事業を継続したところでもあります。貴会会員の皆様には、事業継続に御協力をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、県では、木材生産量50万立方メートルの目標を掲げ、「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」を推進してまいりました。木材生産量は、3年間で10万立方メートル増加し、昨年は38万立方メートルとなりました。今年度は、国のTPP関連事業を活用し、地域の木材加工施設や合板工場に丸太を安定的に供給する取組を支援するとともに、東京オリンピック・パラリンピックを契機に需要拡大が見込まれる森林認証材の供給体制を強化するなど、プロジェクトをさらに加速してまいります。

また、本県の森林・林業、木材産業を再生するためには、県の産業人材確保プランによる人材の育成・確保の取組を積極的に推進する必要がありますが、貴会との積極的な連携が不可欠でありますので、更なる御協力と御支援をお願いします。

平成28年度  
社団法人 静岡県山林協会 第35回定時総会



藤井西伊豆町長 榛村県森連顧問 梁谷島田市長  
鈴木川根本町長 (副会長) 込山小山町長

静岡県議会 議長  
鈴木 洋佑 氏



貴会におかれては日頃県土の保全、山村の振興のため多大なご尽力をいただき、深い敬意と感謝を申し上げます。

日本は森林経営の基礎を欧州から習得しましたが、その欧州では18世紀末頃にオオカミを退治するまで森は危険で怖い場所と言われ、森の美しさが芸術作品で称賛されるようになったのは近世以降だといわれています。

レクリエーションで森に入ることが普通になった現代の日本人は、森の素晴らしさを感じることはあっても、森林整備の作業を見たり森林保全の大切さを感じたりすることは少ないと思いますが、人工林が多い日本では資源の循環利用により森林の保全とともにCO<sub>2</sub>吸収機能を十分に果たすことができます。

貴会は新規就業者対策や森林・林業の大切さのPRに取り組まれておりますが、地球温暖化防止の側面からも県民一人一人が森林保全の大切さを認識することが今後一層重要になってまいります。

県議会といたしましても、皆様方に引き続きご尽力をお願い致します。

結びに静岡県山林協会の益々のご発展とご列席の皆様のご健勝ご多幸を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

# 支部だより①

## 川根本町「木の駅かわね」 ～森も明るく、山里も明るく、心も明るく～

木の駅かわね実行委員長 杉山嘉英

ユニークな視点から山の資源に新たな価値を与える「木の駅」の取組について紹介していただきました。

うだるような暑い日が続く中、山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝することを趣旨とする「山の日」の8月11日がやってくる。昨年この日に、約3年に及ぶ下調べや県外視察・準備会を経て林研会員や森林組合役員など森づくりに関わっている24名が参集し、木の駅かわねの実行委員会が立ちあがった。



▲木の駅オープニング

「木の駅」は全国約60カ所で行われているが、県内では初めての取り組みとなる。山に切り捨てられている間伐材などの木材を「木の駅」に集荷し、共同出荷することで得た収益を町内で使える地域通貨と交換することで、森林・林業の再生と地域経済の活性化の一翼を担うことを目的としている。

初年度の27年は、呼びかけに応じてくれた60名の出荷登録者と地域通貨「ダラ券」が使用できる26の登録商店でスタート。集荷目標100tはわずか2か月あまりで達成することができた。本年度は6月・7月が前期の集荷期間で約80tが集荷されました。後期は10月からで200tを目標としています。

本年度の支払い単価は5,500円/t

で、販売単価との差額は県緑化推進協会の助成金や町の補助金を頂いて補填している。3年間を第一期としているが、次期以降は町内の公共施設や温泉施設のエネルギーの地産地消を実現し、補助金に頼らなくても収支を合わせる体制を構築していきたい。そのために役場や森林組合と課題を検討するとともに、小規模な温泉施設を薪ボイラーに転換しただけでも通年営業なら約500t以上の薪が必要となるので、原料となる木材の集荷能力の向上に努めている。

木の駅の活動は、林地残材の有効活用やエネルギーの地産地消という面でも地域の暮らしにいい影響を与えられると考えるが、町域の94%が森林の川根本町にとって全体の木材生産量からすると取るに足らない量だが、この活動を通じて「新たに」あるいは「再び」山林に入る人が増えたことは、林業の低迷が叫ばれて久しい時だけに今後に期待が持てる。これまで山との関わり方をしなかった人、山はもうどうにもならないと諦めていた人たちに、山と向き合うきっかけになったと思う。



▲木の駅講習会

木の駅出荷者は全員が、毎年安全・

技術講習会を受けることが義務づけられ、ベテランといわれている人にも安全作業を再確認するために参加してもらっている。この場合は安全・技術にとどまらず、「新しくチェーンソーを買いたいが・・・?」「もう少し楽に木を集める方法は?」など林業全般の情報交換の場にもなっている。また初年度だけでも6名の女性が参加し、「木の駅かわね」をきっかけに山に興味を持ち、家族や仲間と一緒に楽しみながら山に入ってチェーンソーを握り汗を流すようになった。

木の駅事業を継続的にいき、母体となった林研グループや森林組合との連携協力、行政の支援も頂きながら、森づくりに積極的に関わる人を増やしていきたいと思う。新しいスタイルで楽しみながら、山を守り、森を活かし、林業を育て、もっと森も人も明るく元気な町にしたい。

11日には、山の日記念イベント「モクモクたいけん」を木の駅実行委員会主催で行います。公募に応じた小学生以上の親子など44名が参加してくれます。プロの技の披露や「木の駅」作業体験、木の名前あてクイズ、木工教室など、山の魅力を精いっぱいお伝えしたいと思っている。

木の駅プロジェクト、まだまだ運営に課題はありますが皆で知恵を出しながら粘り強く活動を続けていきたい。木と人と心意気が集まる場所「木の駅」、皆で一つのことを創り上げていく大変さとそれ以上の心地よさを感じている。

# 支部だより②

## 静岡市森林組合の動物被害対策

### 静岡市森林組合

シカ等の習性を逆手にとった防護柵の新しい設置方法の取組等を紹介していただきました。

静岡市森林組合では、静岡市中山間地振興課と契約を結び、植林して間もない幼齢木を動物の被害から保護する「動物被害対策事業」を行っております。被害というのは、ニホンジカやカモシカ、ノウサギなどが幼齢木の梢端の新芽を食べることで生育不順に陥ってしまい枯れてしまう「食害」、また、ニホンジカやカモシカが角を樹木の幹で研ぐことで樹皮が剥け、生育不順に陥ってしまいう「角とぎ」が挙げられます。静岡市内で特に被害が深刻なのは食害です。

中山間地域での動物による被害の増加が叫ばれ始めて久しいですが、それに伴いニホンジカ・カモシカの日撃数も徐々に増え続けており、現在では山の中で目撃したり鳴き声を聞くことも珍しくなくなりました。また、静岡市における平成25年度のニホンジカによる被害金額は2千万円を超えており（※1）、対策を施さなければ新植地への被害は避けられず、森林経営上無視できない



▲忌避剤散布の様子

ものとなっております。

その対策として当組合では、忌避剤散布と防護柵設置を行っております。しかしながら、忌避剤の効果期間はおよそ3ヵ月程度なので、植林してから十分に生育するまで被害を防ぎ続けるには甚大な費用と労力が掛り、森林所有者と行政の資金面及び労働力の面からみてもすべてをまかないきれません。また防護柵設置では、動物が柵に近づくことを防ぐためスカート付きの防護柵の設置、また、植栽区域の外周を囲い獣道を全て遮断するのではなく、使用頻度の高い獣道を一定の間隔で残す形で植栽区域を分割して防護柵の設置を行う「ブロックディフェンス」式での設置を始めております。（※2）しかし一度防護柵を設置すればそれで終わりというわけではなく、倒木や落石などによる防護柵の破損、動物が柵の下に穴をあけて出入りすることがよくあるので、定期的な見回りと補修が欠かせません。そのような管理については森林所有者様が行うこととなりますので、防護

柵の維持管理にかかる人員や費用負担についても苦慮しております。当組合としては今後ともこのような対策に取り組みながら、被害対策の効果向上やメンテナンス経費節減に向け、より効率的な手段を模索していこうと考えております。



▲防護柵設置の様子



▲落石で破損した防護柵

#### 参考文献

- ※1 静岡市鳥獣被害防止計画について、  
<http://www.city.shizuoka.jp/000695270.pdf>、  
(平成28年7月26日)
- ※2 シカ防護柵の破損リスク低減に向けた取り組み、  
(森林総合研究所森林整備センター)  
[http://www.green.go.jp/gijyutsu/pdf/zorin\\_h2706.pdf](http://www.green.go.jp/gijyutsu/pdf/zorin_h2706.pdf)、  
(平成28年7月26日)  
(従来の獣道を遮断されると、シカがそのルートを復元しようとするのが網を破る原因の一つと考え、獣道を残したところ網を破損することが減少した。)

# 支部 だより③

## 獅子ヶ鼻トレッキングで磐田の魅力再発見！ ～ 婚活もやっています ～

磐田市農林水産課 トレッキングコース整備チーム

新東名の遠州森スマート IC から車で10分ほどの場所にある魅力的な里山コースを紹介していただきました。

### はじめに

磐田市最北部、旧豊岡村の敷地・虫生地区と森町との境界に位置する獅子ヶ鼻トレッキングコース。以前この頁で「トレッキングから始まる林業振興」と題して完成間近のコースとして紹介させていただきました。

獅子ヶ鼻トレッキングコースは、獅子ヶ鼻公園とその北側周辺の森林エリアの中を、標高200mクラスの小ピークを登り下りしながら踏破する全長7kmほどのコースです。NPO法人日本トレッキング協会の「登録トレイル」にも認定されていて、初心者からベテランまで様々な楽しみ方が可能です。

今回は、完成したコースの見どころや伝説、イベントなどについて紹介させていただきます。

### 奇岩「獅子ヶ鼻」(ししがはな)

昔は「牛ヶ鼻」と呼ばれていました。安政の大地震(1855年)で一部がくずれて形が変わり、獅子の頭に似てきたことから「獅子ヶ鼻」と呼ばれるようになりました。この姿は、公園内の「歴史の広場」からしか確認できません。獅子の頭からの眺望は、遠く遠州灘まで臨める風光明媚なスポットです。



▲奇岩「獅子ヶ鼻」

### 衣掛けの松(ころもがけのまつ)

獅子ヶ鼻の下の岩肌に、弘法大師が詠んだとも伝わる歌が刻まれています。弘法大師がこのとき身に着けていた衣を頭上の枝にかけたといわれる松(現在は2代目?)も残されていて、時代の息吹を感じます。『世をうし乃 はな見車に 法のみちひかれてここを 廻りきにけり』



▲弘法大師の歌

### あずまや

平成26年3月に完成。森町のお茶畑を近景に、遠くは袋井市のエコパスタジアムまで望める絶景ポイントです。初日の出スポットとしても例年賑わいます。

### 八畳岩(はちじょういわ)

森町と磐田市の境界に位置する畳八畳ほどの広さの岩盤です。平らな大岩の上で大の字になりキレイな空気を吸うのも一興です。本宮山、秋葉山などの展望もすばらしい。

### 浮石(うきいし)

落ちそうで落ちない石。太古の昔、海底隆起の際に天竜川の上流から押し流されてきたともいわれています。

平成28年2月の受験シーズンに「落ちない石」としてテレビでも紹介されました。



▲浮石(落ちない石)

### 鐘掛岩(かなかけいわ)

奈良時代の高僧行基が景色の美しさに見とれ鐘をもって立ち寄った場所と言われています。断崖絶壁で150mの眼下には敷地川や虫生の里が見下ろせる絶叫ポイントです。高所恐怖症の方はご遠慮ください。

### 虫生冷泉(むしゅうれいせん)

江戸時代から冷泉が湧いていた場所で、明治時代まで20数軒の湯治宿がありました。今でも微かに硫黄の臭いがします。この水を沸かすことで温泉気分を味わえます。

このほか、トレッキングコースには、四季折々60種類もの植物が確認されていて、さまざまな野鳥やときにはニホンカモシカも出迎えてくれます。

### トレッキング de 婚活

トレッキングコースではこれまで、ころ柿ウォークやフォトコンテストなど、さまざまなイベントが催されてきましたが、中でも平成24年度から7回開催され、延べ26組のカップルが成立している「トレッキング de 婚活」が好評です。

これからも縁結びのイベントとして年2回(5月・11月)開催していく予定です。



▲第3回婚活:八畳岩にて

# 県庁だより①

## 低コスト造林システムの定着に向けた新たな取組

経済産業部森林・林業局 森林整備課

皆伐を躊躇なく選択できるような時代が到来しつつあるとの報告を紹介いただきました。

### はじめに

戦後植栽したスギやヒノキの人工林が木材資源として充実してきたことから、これらを循環利用するための皆伐（かいばつ）と再造林が必要となります。しかし、材価の上昇が見込めない中、伐採した木材の収益で造林コストをまかなうことが難しくなっているため、皆伐が進まないのが現状です。そこで、県は、造林コストを縮減するため、「低コスト造林システム」の定着に向けた取組を始めました。

### 低コスト造林システムとは？

低コスト造林システムは、地ごしらえ、植栽、下刈りの各工程におけるコストを縮減します。具体的には下表のとおりです。続いて各工程について説明します。

工程	従来のシステム	低コスト造林システム
地ごしらえ	人力	→ 省略・機械化
植栽	裸苗	→ コンテナ苗
下刈り	精英樹	→ エリートツリー

### 地ごしらえの省略・機械化

地ごしらえは、伐採した際に残った材や枝などを、植栽を行う前に整理し、片付ける作業です。従来は、秋～冬に伐採し、春に地ごしらえと植栽を行ってきましたが、低コスト造林システムでは、伐採と造林を一体的に実施し（一貫作業）、伐採後に続けて植栽を行い、作業効率の最適化を図ります。

その際の要点は2つあります。1つ目は、伐採木から発生する枝葉をできるだけ林内に残さない作業方法を採用することです。伐採や搬出にかかる経費は増加することもありま

すが、その増加分以上に地ごしらえが縮減されます。2つ目は、木材搬出に利用した機械を用いて枝葉の片付けを行うことです。従来は春の地ごしらえ時には機械は撤収されており、人力で作業していましたが、一貫作業では機械の利用が可能です。

### コンテナ苗

新たに導入するコンテナ苗は、コンテナ容器で育てられているため、根鉢が均一の大きさに形成されていることが特徴です（写真）。この苗を使うと植穴が小さくて良いため、植栽効率が向上します。加えて、緩傾斜地では専用器具を使うことにより、穴あけがより効率的になるため、植栽コストの縮減が可能となります。

また、裸苗に比べて乾燥に強いいため、乾燥が極端に厳しい時期を除き活着可能であるという利点もあり、上述の一貫作業に適すると考えられています。

### エリートツリー

下刈りは、植えた木が雑草木より高くなるまでの間、一般的には植栽後5～10年間必要です。低コスト造林システムでは、成長の早い品種の苗木を使用することにより、早期に下刈りを不要とすることでコスト

を縮減します。

現在、県森林・林業研究センターが、県内各地の試験林等から成長が早いことに加え、強度・通直性・花粉量の観点でトータルに優れる品種を選抜しています。選抜されたものの中から、国が定める基準を満たし、指定を受けたものを「静岡型エリートツリー」として、種子生産の母樹として採用します（7品種が指定済）。平成28年度内に、採種園（母樹園）を整備し、平成30年秋から種子を採る予定となっています。指定された品種の1つは、樹齢21年時の材積が従来精英樹の2倍と高成長です。

### 低コスト造林システムの普及に向けて

平成27年度から県内民有林において低コスト造林システムの実証事業を開始しました。県内5か所（計5ha程度）において、実際に森林組合等に低コスト造林システムを実行してもらったところ、再造林費用（植栽と獣害対策）は90～130万円/ha（従来比45～65%）となりました。実施者に感想を聞き取ると、システムに不慣れでロスが生じたという声が聞かれ、さらなるコスト縮減も期待されます。

一方で、コンテナ苗の生産・流通が非効率で割高になることが課題です。解決するためには、需要の増加による生産規模の拡大が必要です。平成28年度も引き続き実証事業を行い、より効果が得られる条件、手法について明らかにし、普及を図っていく予定です。



コンテナ容器で育てられるため、根鉢が均一の大きさに形成される（左：発芽直後、右：植栽時）

# 県庁だより②

## 花と緑にあふれた県土を目指して ～県環境ふれあい課の取組～

### くらし・環境部 環境ふれあい課

県民の身近にあり親しみのある桜や芝生の普及・啓発への取組を紹介していただきました。

花や緑は、人の心の豊かにし、良好な景観を創造するなど数多くの効用を持ち、人々が暮らす生活環境の向上に欠かせないものです。

花や緑の質を向上させ量を充実させていくための取組の一つとして、県くらし・環境部では、(公社)静岡県緑化推進協会や(公財)静岡県グリーンバンクと連携し、山間部及び都市部の双方からの緑化に取り組むほか、「桜」・「芝生」の普及を行っています。その内容について御紹介します。

#### 1 「桜」に関する取組

古来より人々に愛され、県内にも数多くの名所がある桜。県では、国花でもある桜を愛護する精神を広く県民に普及させると共に、その保護育成を図ることを目的として、昭和41年に『静岡県さくらの会』(会長:静岡県知事、会員:県内市町等63会員)を設立し、桜の普及啓発、維持管理に取り組んでいます。

##### (1) さくら愛護思想普及事業

・本県の桜の魅力について広く県民に周知するため、県内の桜をテーマとした「さくら写真コンクール」を実施しています。平成19年度からは「富士山と桜」部門を追加、本県の誇る美しい景観の一層の啓発に努めています。

##### (2) さくら保護奨励事業

・会員からの要望を受け、桜の維持管理への指導のため樹木医などの専門家を派遣する「巡回指導事業」、桜名所の整備計画に対する技術的助言を行う「相談員派遣事業」を実施

しています。

#### 2 「芝生」に関する取組

人々に安らぎや潤いを与え、四季の美しい景観などを創出するばかりでなく、都市部における夏季の極度な気温上昇抑止など、今日の様々な環境問題の解決に貢献する多くの機能を持つ芝生。この芝生を普及し、県民生活により密着し調和していくことを目的として平成24年度から取り組んでいる『芝生文化創造プロジェクト』の中で「普及」と「調査研究」の双方から芝生地拡大を目指しています。

##### (1) 芝生緑化の促進(静岡県グリーンバンクによる活動支援)

・保育園・幼稚園の園庭等の公共的な場所の芝生化活動を支援する「園庭等芝生化モデル事業」、芝生地の維持管理を行う団体の活動費を支援する「芝生管理活動支援事業」等の補助事業により芝生緑化を促進しています。

・芝生管理を行う人材を養成するため研修会や講演会に取り組んでいます。

##### (2) 調査研究

・静岡県農業技術研究所内に「静岡県芝草研究所」を設置し、調査研究に取り組んでいます。同研究所では「常緑性、耐踏圧性が高く低コストで管理しやすい芝生」の研究をテーマとしており、今年度中に『園庭／校庭の芝生化マニュアル(仮称)』を完成させる予定です。

#### 3 取組事例の紹介

小山町から、町内の桜や芝生の管理に関する指導の要望を受け、県環境ふれあい課では平成28年4月26日(火)、小山町健康福祉会館において行われた桜と芝生の維持管理等に関する講習会に講師を派遣しました。

##### 【桜植栽の課題と対策・管理】

最初に行われたのは、元県農業試験場伊豆分場長で樹木医の水戸氏による、桜の管理に関する講習です。桜の性質・特性、植栽方法、将来的な管理に関する留意点など説明範囲は多岐にわたりましたが、水戸氏の「桜の維持管理は植栽の前の計画の段階から始まっており、これが大変重要である」という熱意のこもった話に、受講者も熱心に聞き入っていました。

##### 【芝生の植え方・育て方】

続いて、県芝草研究所の池村研究主幹による芝生の管理方法等に関する講習です。実際の芝生管理を行う上で重要な芝刈りのタイミング、施肥の方法など、実践的な内容が中心でした。「芝生管理の失敗の最も大きな原因は肥料の不足によるもの」という池村主幹の説明は軽妙で、会場内は終始明るい雰囲気でした。

環境ふれあい課では、今後も桜の巡回指導事業による桜名所の維持管理指導や、静岡県グリーンバンクを通じた芝生緑化活動への支援、芝草研究所による技術的支援を通じ、県内の緑化に積極的に取り組んでまいります。



▲静岡県さくらの会「さくら写真コンクール」より

## 『第35回定時総会での補欠選任後の役員の方々』

平成28年8月29日開催の第35回総会・理事会で、榛村純一副会長、狩野正明理事、高本靖理事の3名の方が退任されました。退任された役員の皆様には、長い間当協会の発展向上に多大なご尽力をいただき誠に有難うございました。

特に今回退任された榛村純一様におかれては、昭和56年の4月の山林協会発足時から、平成16年までの24年間を会長として、またその後は副会長として今年までの11年間、合計35年間余の長きにわたり協会運営に携わっていただきました。その間、昭和57年の社団法人化、平成6年の全市町村の出捐による森林整備担い手基金（5億円）設置、平成10年の林業労働力確保支援センターの指定、平成23年の公益社団法人化などの山林協会発展の節目に指導力を発揮していただきました、重ねてお礼を申し上げます。後任には、副会長に中谷多加二様（県森林組合連合会会長）、理事に吉澤修一様（静岡市森林組合長）、松本豊様（県緑化委推進協会専務理事）が就任されました。この結果、平成29年8月の総会までの役員は右表のとおりとなりますので、協会運営につきまして会員の皆様のご協力をおねがいします。

公益社団法人 静岡県山林協会 新役員名簿

任期 H27.8.28 ~ H29.8 総会まで

職名	支部・全県の別	氏名	協会役職	
理事	賀 茂	藤井 武彦		西伊豆町長
		土屋 勝利		伊豆森林組合長
	東 部	菊地 豊	副会長	伊豆市長
		込山 正秀		小山町長
		伊東 修		田方森林組合長
	富 士	須藤 秀忠		富士宮市長
		渡井 正孝		富士市森林組合長
	中 部	田辺 信宏		静岡市長
		吉澤 修一		静岡市森林組合長
	志 太 榛 原	染谷 絹代	副会長	島田市長
鈴木 敏夫		川根本町長		
山下 喜隆		森林組合おおいがわ組合長		
中 遠	松井 三郎		掛川市長	
	榛村 航一		掛川市森林組合長	
西 部	鈴木 康友	会長	浜松市長	
	岡本 均		春野森林組合長	
	和田 重明		天竜森林組合長	
全 県	内山 弘	副会長	静岡県木材協同組合連合会長	
	中谷多加二		静岡県森林組合連合会会長	
	狩野 宏		公益社団法人 静岡県林業会議所理事	
	松本 豊		公益社団法人 静岡県緑化推進協会専務理事	
	林 信次		公益社団法人静岡県山林協会専務理事	
監事	全 県	中島 公望	フォレスターしずおか理事	
		小野登志子	伊豆の国市長	
		片桐 滋人	龍山森林組合長	
		橋本 和男	静岡県山林種苗協同組合連合会長	

公益社団法人  
「森と人」 静岡県山林協会  
編集・発行 静岡市葵区追手町 9-6 県庁西館 9F  
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489